

光ファイバ伝送専門委員会 標準(案) 説明資料

新規 1件

2022年度4Q

一般社団法人情報通信技術委員会(TTC)
光ファイバ伝送専門委員会

委員会構成

光ファイバ伝送専門委員会

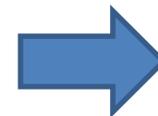
委員長 中島氏 (NTT)
副委員長 飯塚氏 (ソフトバンク)

光ファイバシステムSWG (SWG2001)

リーダー 吉兼氏 (KDDI)
ITU-T SG15 課題6に対応

光ファイバケーブルSWG (SWG2002)

リーダー 中島氏 (NTT)
ITU-T SG15 課題5、7、8に対応



JT-L100 (第1版) 作成

標準案

【新規：1件，改訂：0件，廃止：0件】

- JT-L100（第1版）：
ダクト・トンネル用光ファイバケーブル
Optical fibre cables for duct and tunnel application

国際標準との関連

TTC標準	対応する国際標準
JT-L100 (第1版)	ITU-T L.100 (5/2021)

JT-L100 標準案

ダクト・トンネル用光ファイバケーブル

Optical fibre cables for duct and tunnel application

説明資料

光ファイバ伝送専門委員会
光ファイバケーブルSWG

JT-L100

はじめに

ITU-Tにおける光ファイバケーブルの国際標準は、伝送システム等に関する勧告群(Gシリーズ)と屋外設備や保守・運用に関する勧告群(Lシリーズ)の2種類に大別される。

Lシリーズ勧告群には、光ファイバケーブル、その試験法と敷設法に関する勧告群が網羅されており、現在、ITU-Tが所掌する光ケーブル勧告は以下の種類である。

L.100 ダクト及びトンネル用ケーブル

L.102 架空用ケーブル

L.104 少心構内用ケーブル

L.106 アクセス網用ケーブル

L.109.1 アクセス他端末用光電気複合ケーブル

L.101 直埋用ケーブル

L.103 屋内用ケーブル

L.105 引き落とし用ケーブル

L.109 光メタル複合ケーブル

L.430 浅海用ケーブル

ITU-T L.100は、ダクト及びトンネルに適用され牽引方式で敷設される光ファイバケーブルの特性、構造、試験方法、及び性能基準を記載している。ITU-T L.100は陸上長距離、メトロアクセス、データセンタ網など幅広い市場セグメントで調達・取引されるため、必須の国際標準と位置づけられる。このため、TTCにおいてもITU-T L.100の速やかなJT標準化が必要と判断した。

JT-L100 標準案

【JT-L100での規定事項】

本標準は、次のとおりである。

- ダクト及びトンネル内の通信ネットワークに使用する引込み方式で敷設されたシングルモード光ファイバケーブルに言及する。
- 光ファイバの寸法及び伝送特性は、その試験方法とともに、[JT-G652]、[ITU-T G.653]、[JT-G654]、[ITU-T G.655]、[ITU-T G.656]、[JT-G657]及び[IEC 60793-2-50]に一つ以上適合すべきことを推奨する。
- 当該光ファイバケーブルの機械特性及び環境特性について規定する。
- 当該光ファイバケーブルに適用される[IEC 60794-3-11]の技術仕様に言及する。
- ダクト及びトンネル適用空間に関連するこれらの試験の性能基準を推奨する。

【ITU-T L.100との差違】

なし

【その他】

なし

JT-L100

標準案 目次

<L.100 (2021/5) 和訳>

1. 規定範囲
 2. 参照
 3. 定義
 4. 略語
 5. 慣例
 6. 光ファイバケーブルの特性
 7. ケーブル構造
- 付属文書A 試験方法
参考文献

章節、図番	ケーブル構造の名称	図例
7.2.3 図4	スロットケーブル	
7.2.4 図5	ルースチューブケーブル	
7.2.5 図6	マイクロモジュール	
7.2.6 図7	補強光ファイバ	